



AUE News

2013年7月15日

第 65 号

編集・発行

愛知教育大学広報チーム

TEL 0566-26-2738

FAX 0566-26-2500



目次

● 行事予定(7月 16-31 日)

● トピックス

- ・生協ビアホール
- ・松田学長ら一宮西高校で講演
- ・七夕ロード
- ・グローバル授業
- ・全国同時七夕講演会 2013・愛教大サイエンスカフェ
- ・「種」プロジェクト講演会

● 愛教人インタビュー～「日本エッセイスト・クラブ賞」受賞の尾崎俊介教授

● お知らせ・報告・投稿

- ・中日書道展で神谷早紀さんら入賞
- ・東海地区国立大学体育大会水泳競技
- ・陸上学生選手権・西日本学生陸上競技対校選手権結果
- ・大学見学に知多翔洋高校、岡崎北高校、春日井南高校、桑名西高校が来学
- ・催しもの案内

行事予定(7/16-31)

- 16日(火) 役員部局長会議 (13:00～ 学長室)
- 17日(水) 教員人事委員会 (13:30～ 第五会議室)
キャンパスクリーンデイ (15:30～ 構内一带)
- 23日(火) 情報システム委員会 (11:00～ 第五会議室)
役員会 (14:00～ 学長室)
- 27日(土) オープンキャンパス 2013 (28日まで)

トピックス

生協ビアホール(7/4、5)



7月4日(木)、5日(金)に第二福利施設で、今年もビアホールを開催しました。生協学生委員会が中心となり教職員組合と協力して、幅広い人たちの交流と将来を考えるきっかけの場になるように学生委員会で担当者が企画し、さまざまな取り組みを行いました。たくさんの人に来てもらい、楽しんでもらうためにお酒が飲めない人・車で通勤・通学している人でも楽しめるようノンアルコールカクテルを新たにドリンク

のメニューに加え、カクテルも種類を増やしました。企画ではいつも学生がお世話になっていても、あまり話すことができない大学の職員のみなさんに教員採用試験を迎える4年生に対する応援メッセージを書いていただき、当日掲示をしたり、七夕の直前ということもあり来場者に願い事を短冊に書いてもらい笹に飾りました。また、学長先生をはじめとする先生方に協力していただき応援メッセージのビデオレターも作成し、ビアホールの終わりに上映をしました。



ゼミ単位で来場される方も多く、最後に教員採用試験への応援・意気込みを一人ひとり話すグループもあり、教職員と学生が有意義な時間を過ごしていました。

(生協学生委員会 ビアホール担当 坪崎友里)

松田学長ら一宮西高校で講演(7/4)

松田正久学長が7月4日(木)、一宮市の愛知県立一宮西高校を訪問し、本学入学希望の3年生と先生を含む約80人を対象に講演を行いました。同校からは多くの卒業生が本学に入学しており、講演は学校側の要請に応じて実施されました。今回、一宮西高校出身の本学在学学生2人も同行しました。

本学の大学紹介DVDが放映された後、松田学長は数式と図表を用いて、世界人口の増加、二酸化炭素排出量の増加、人類を取り巻く厳しい食糧環境やエネルギー環境などについて、わかりやすく分析しました。「こうした中で、ぜひしっかり勉強して、新しい世界観と地球観を見い出してほしい」と高校生たちに訴えました。教員とは何か、教養とは何か、高校生に問い掛けながら、教員養成を軸に教養教育を重視する本学の特色を紹介し、大学が果たすべき「知の継承・知の創造・知の貢献」の役割を強調しました。また、教員養成課程、現代学芸課程のそれぞれの選修・



専攻およびコースの充実な勉強内容、取得できる豊富な免許の種類、卒業後の多様な進路などについて詳しく説明し、ぜひ自然豊かな本学に入学してほしいと呼び掛けました。最後は「教えるとは、希望を語ること 学ぶとは誠実を胸に刻むこと」というルイ・アラゴンの言葉を引用して講演を締めくくりました。

その後は、一宮西高校出身の本学在学学生が愛教大を目指した理由、キャンパスライフ、通学の交通手段、アルバイトなどについて、学生の目線で紹介。「先生を本気で目指すなら、ぜひ愛教大に入ってほしい」「素晴らしい先生がたくさんいます」「大学祭、介護実習などはとても楽しい」など、受験生たちに熱い応援メッセージを送りました。

講演後、松田学長と本学学生を囲んでの質問タイムが設けられました。試験科目、勉強方法などについて質問が次々と出され、松田学長も真剣にメモをとりながら丁寧に回答し、7月27日と28日の愛教大のオープンキャンパスにぜひ来て、体験してほしいとアピールしました。



七夕ロード(7/4-11)

七夕にちなんだ竹を使ったアーチ「七夕ロード」が7月4日(木)～11日(木)、第一共通棟北側の中庭にお目見えしました。

七夕ロードは、学内の環境を整備する「エコキャンパス 竹プロジェクト」の一環で今年が3回目。本学内の竹林を整備し、竹林の再生を目指すとともに、竹の有効活用を実践するために、今回は数学選修・専攻の2年生が図画工作の授業で制作。5グループに分かれて、竹の先端を麻縄などで結んで長さ各5m、高さ4m、幅3m50cm、全長25mのアーチが作られ、枝の先には「教採試験に合格!」「恋人ができますように」「豊かな心・楽しい人生 強い心を持ちたい」などと願い事を書いた色とりどりの短冊が結び付けられました。



7月に入って連日の真夏日が続く中でも、夕刻には短冊が風に揺れて涼感を誘っていました。指導に当たった宇納一公特別教授は「今年は曜日の関係や雨天で、短冊が少し少なかったですが、

教員を目指す学生たちには、よい体験になったはず」と話していました。

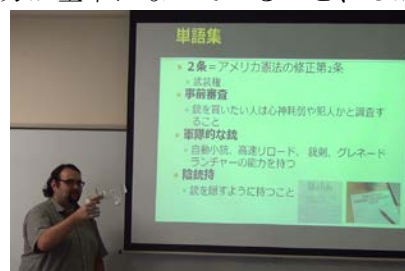
グローバル授業(7/5)

7月5日(金)、グローバル授業(第1回)が開催されました。「グローバル授業」は本学への留学生が自分の国・地域の文化、社会、伝統、言語などを、写真や動画使ったプレゼンテーションで分かりやすく紹介し、異文化理解や国際交流を深めることを目的とした活動です。使用言語は日本語、英語などです。



今回は、米国ボールステート大学からの留学生のアンソニー・ペリンさんによるアメリカ銃社会に関するプレゼンテーションが行われました。ペリンさんがこのテーマを選んだのは、日本に到着したとき、空港でいきなり「銃、何丁持っている?」と質問されたことがきっかけです。授業では、アメリカ合衆国憲法修正第2条では「国民が銃をもつ権利」を保障していること、合衆国憲

法の精神は、「自由国家」が武器によって守られるという考え方が基本になっていること、しかし一方で銃による犯罪・事件が後を絶たないこと、銃規制に関しては政治家や国民の間で様々な議論があること等が統計や映像を用いて紹介されました。参加者からは、銃の種類、事前審査や購入、所持、練習の方法等について質問が出されました。そして、「銃規制をすれば本当に銃による犯罪や事件が減少するか」という問題についてディスカッションが行われました。



今年度は教員研修留学生他を中心に、ミャンマー、ラオス、ケニア、イエメン、モンゴル、ブラジル、韓国、台湾、米国等に関するプレゼンテーションを計画しています。

(日本語教育講座 教授 稲葉みどり)

全国同時七夕講演会 2013、愛知教育大学サイエンスカフェ(7/7)



7月7日(日)全国同時七夕講演会の5回目、愛知教育大学サイエンスカフェの6回目が、自然科学棟で午後6時から行われ、81人が参加しました。

講演は、4月から本学に赴任された講師の幅良統先生にお願いました。幅さんはX線を使った観測天文学の研究をされているので「X線で輝く宇宙」というタイトルで解説していただきました。まずは、X線とは何かについて、レントゲ

ンの写真などを使って紹介。X線は目に見えないため、私たちが光で見ている宇宙と、X線で見える宇宙はまったく別の姿をしていることなどを画像で説明されました。X線は宇宙に存在する高温のガス(プラズマ)から発せられるため、超新星残骸やブラックホール、中性子星といった天体の回りに形成される降着円盤などを見ることができますが、それらについて画像を



示して説明され、ダークマターの存在なども、銀河団のX線の分布から分かること、次期X線天文衛星AATRO-Hについても解説されました。

午後7時からはカフェタイム。参加者が予想以上に多かったため、部屋に入れなかった方もいたようで、主催者側の反省点となりました。今後は皆さんがゆったりとおしゃべりできる空間を作りたいと思います。

その後、土星観望会、3D宇宙の旅上映会、プラネタリ



ウムを同時並行で実施。40cm望遠鏡では土星を見ました。今回は大気の状態が安定しており、土星の輪、カッシーニの空隙、土星の衛星タイタンをはっきりと見ることができ、多くの参加者が感動していたようです。3D上映会は3回、プラネタリウムも複数回上映して好評で、多くの方に楽しんでいただけたと思っています。今後もこのような活動を続けていきたいと思しますので、ぜひ参加してください。

(理科教育 澤武文特別教授 「天文台HP」より抜粋)

種プロジェクト講演会(7/10)

エコキャンパス事業の一環の図書館「種」プロジェクト第1回講演会が、7月10日(水)午後1時から附属図書館2階のアイ♥スペースで行われ、教職員や学生合わせて16人が参加しました。



講演の題目は「簡単にできる花壇づくり」で、講師は芹澤俊介名誉教授。芹澤名誉教授は「学生が先生になり、学校花壇を作ることになると、お金をかけない、夏休み期間の水やりなどいろいろな制約の中でどう花を育てるかが課題になります。何を栽培するのかを考える時は、一般的には一年中咲いているものもいい。最初はビオラやポチュラカがおすすめで、この2種類を組み合わせれば、1回ずつ植え替えるだけでいい」などと話し、簡単な花壇づくりの方法を紹介。一年草、多年草、ポスト苗の特徴、植える場所、土づくり、種まき、肥料、病虫害、種とりなどの方法を説明しました。「本学にあまり花壇がなかったですが、最近は増えてきました。本当は授業の中で学生ができるといいのですが、手間がかかりなかなか授業に組み込めないのが現状です。あまり手間をかけずに楽しく花作りする方法がありますから、ぜひ挑戦してください」と話しました。

参加者からは「プランターで育てやすい植物は何ですか」「今の時期に生える雑草の除草の仕方は」などの質問が出され、「つる性でないものいいでしょう」「雑草が生えるなら、横に広がるマリーゴールドなどが手入れは楽です」などと答えていました。講座の最後には、この時期に育てやすいポチュラカの苗が配布され、参加者が持ち帰りました。



愛教人インタビュー

「日本エッセイスト・クラブ賞」受賞の尾崎俊介教授

本学の尾崎俊介教授(外国語講座)の著書『S先生のこと』(新宿書房)が、「第61回日本エッセイスト・クラブ賞」に選ばれました。大学時代に出会った恩師を追悼した著作が同賞に輝いた尾崎教授に、喜びの声を伺いました。

*



*

—日本のエッセイを代表する「日本エッセイスト・クラブ賞」受賞、おめでとうございます。このエッセイを、いつごろ、どんなきっかけで書こうと思われたのですか。

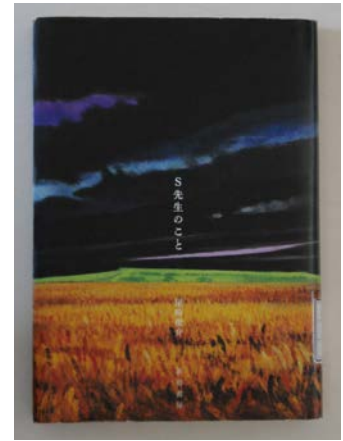
大学時代の恩師でアメリカ南部小説研究者の須山静夫先生が平成23年7月17日に亡くなり、先生の生き方は後生に伝える価値があると思いました。今まで研究書を書くことはありましたが、エッセイはこれが初めて。私が慶応大学在学中に出会って以来、27年間のお付き合いがあり、亡くなって一週間後に執筆を始めると、たち

どころに原稿用紙 300 枚ぐらいペンが進み、出版しようと決めました。

一著書を拝読して、須山先生と尾崎先生のやりとりは、いつも静かで淡々とした空気に包まれながらも、相手を思いやる強いつながりが感じられました。そんな師弟関係が、大変うらやましかったです。

「うらやましい」と、いろんな人から言われました。僕の同年代の研究者でも、そんな師弟関係はまれで、僕自身も特殊だと思います。慶応大での指導教官はアメリカ文学研究の第一人者の大橋吉之輔先生で、大橋先生の紹介で明治大学から非常勤講師として教えに来ていた須山先生の授業を受けたのが先生との出会いでした。

須山先生はアメリカ南部小説家ウィリアム・フォークナー、ブライナー・オコナー、ウィリアム・スタイロンなどの研究者として知られていましたが、若くして奥様を病気で亡くされ、さらに長男を交通事故で亡くされて、私生活では苦悩された。先生はその人生の不条理「なぜ？」の答えをアメリカ南部の影を描いたフォークナー作品に求め、フォークナー作品を研究することで、死の世界から抜け出し、未来に希望を見い出そうとしていたのです。それを著作の小説に込めて書かれた。いつも飄々とした先生は、その苦しみを自ら口にされることはなかったのですが、先生の執筆した小説にはそれが描かれていたのです。



一お二人には、確かな信頼関係があり、それが 27 年間続いたというのは、大変貴重なことですね。

僕が「子分肌」の本質を持っているのかも（笑）。関係が濃いのかと問われると、「水のように淡い」。大橋先生からは随分いろいろ言われながらも働きましたが、須山先生は「あれやれ、これやれ」がなかった。喜怒哀楽があまりなかった。しかし、学生時代に須山先生の心の内に気付いていくと、「ただ事ではない」と強く感じました。最愛の妻、息子を亡くされ、再婚された後、自分だけが幸せになってはいけないという思いがあった。大学院を修了し、本学に勤めるようになって、毎年夏休みには須山先生のご自宅を訪ねるのが習慣になっ

ていましたから、亡くなって一週間は茫然としていました。

一本が受賞作となり、どんなお気持ちですか。

天国で先生が褒めてくれるかな。「よく俺の気持ちを押し量ってくれた」と。先生のことを書こうと決めてから、迷いや計算がなく、毎日 1 時間ずつ、夏休み期間の 33 日で書き上げました。ところが、本にしようと出版社に持ちかけたところ「追悼文は売れない」と門前払いで、何十社に断られたか。「そんなはずはない」と確信していましたから、1 年ぐらい断られ続けて慣れてきて、「はい、次」と原稿を送り続けました（笑）。最終的に今回の新宿書房に決まりましたが、そこで編集者と丁々発止のシビアなやりとりがあって出版となり、今回の受賞。あれだけ断られ続けたのに、「神様はいるんだな」と結果オーライになりました。この本は僕以外には書けなかったもので、やることはやったという気がしています。出版社、日本エッセイスト・クラブがこの本に価値を見出してくれたことに感謝しています。



一そんな恩師の先生方との出会いを、学生を導く立場にある今、どのように生かしているのですか。

須山先生のように立派になれるとは思わないんですが、少なくともゼミ生に対しては徹底的に可愛がるように心がけています。ひいきするというのはではなく、「私を守ってくれる」と信じてもらえるように愛情を持って接していきたいです。

一話は変わりますが、そんな尾崎先生のご趣味は何ですか。

今は古武道。3 年前から始めた柔術「八光流 2 段」です。もともと格闘技は好きでしたので、最終的には道場を開きたい。今日もこれから稽古に行ってきます。

*

(写真は上から①研究室でインタビューを受ける尾崎教授②受賞作「S先生のこと」③恩師・須山先生から贈られたボールペンを手に④6月27日の贈呈式で。)

(インタビュー：秘書広報課 小林則子)

お知らせ・報告・投稿

中日書道展で神谷早紀さんら入賞(報告)

第63回中日書道展(主催：中部日本書道会主催)で本学学生が入賞しました。

- 奨励賞 入山真城さん(保健体育専攻4年)
神谷早紀さん(国語選修2年)
鬼頭舞さん(国語・書道専攻1年)
- 一科入選 尾税克則さん(社会選修2年)
二科入選 鈴木祐衣さん(数学専攻1年)

授賞式は6月16日(日)にウエスティンナゴヤキャッスル(名古屋市)で行われ、一科の作品は18日～23日(日)、二科の作品は26日～30日(日)にそれぞれ名古屋市博物館で展示されました。

第62回東海地区国立大学体育大会水泳競技(報告)

愛知県口論義運動公園室内水泳施設(日進市)で6月30日(日)、東海地区国立大学体育大会水泳競技が本学当番校により開催され、静岡大、浜松医科大、三重大、名古屋大、岐阜大、名古屋工業大、豊橋技術科学大、本学の8大学から男女合わせ200人の選手が参加しました。

会場は室内プール。開会式では当番校競技部長として水泳部顧問教員の寺本圭輔先生が優勝杯返還の



受け取りとあいさつを行いました。試合は、日本水泳連盟競泳競技規則の下、参加選手は事前に日本水泳連盟にエントリー登録しており、公認審判員として日本水泳連盟学生委員会中部支部から26人の審判資格を有した先生方に各レースの判定を依頼。男女別大学対抗戦では、すべてのレースを予選無しのタイムレース決勝にて実施しました。

開始とともに観覧席から各大学の熱の入った応援合戦が場内に響き渡っていました。30競技ある種目のリレーと個人競技中で、本学は半数の種目で1位を獲得し、また10種目で大会新記録を続出しました。

大きなケガ・事故等はなく無事に終え、熱戦の結果、男子総合は岐阜大学が優勝し、残念ながら本学は当番の運営業務の忙しさにより普段の力を発揮できず第6位、そして女子総合は本学が全国的レベルの力を発揮して圧倒的な成績を残し優勝しました。全日程終了後、本学水泳部員の選手兼世話係の1人は「本学の参加人数が今回少なく、運営が大変でしたが、何とか無事に競技を終えることができました」と話していました。



(学生支援課 課外教育担当係長 亀山重人)

陸上競技学生選手権・西日本学生陸上競技対校選手権(報告)

「2013 日本学生陸上競技個人選手権」(主催：日本学生陸上競技連合)が6月21日(金)～

23日(日)に、神奈川県 ShonanBMW スタジアム平塚で行われ、本学陸上部の学生が入賞しました。

| | | |
|-------|------------|----|
| 男子三段跳 | 佐脇 匠(体育4) | 2位 |
| 女子走高跳 | 堂ノ下 藍(体育4) | 7位 |
| | 池住 瑞紀(体育1) | 7位 |

＊

また、7月5日(金)～7日(日)には「秩父宮賜杯 第66回西日本学生陸上競技対校選手権大会」が徳島県の鳴門大塚スポーツパーク ポカリスエットスタジアムで開催され、本学学生が下記のとおり入賞しました。

| | | | |
|----|----------|------------|----|
| 男子 | 10000 競歩 | 戸松 弘成(英語2) | 3位 |
| | 三段跳び | 佐脇 匠(体育4) | 2位 |
| | 走り高跳び | 糟谷 隆明(体育2) | 1位 |
| | フィールド総合 | 羽實昂也(体育2) | 5位 |
| | | | 6位 |

| | | | |
|----|-------|-------------|----|
| 女子 | 400 | 木引 悠起子(体育3) | 6位 |
| | 800 | 吉川 侑希(体育1) | 4位 |
| | 1500 | 安藤 実来(体育3) | 7位 |
| | 10000 | 荻野 夏帆(体育2) | 6位 |
| | 走高跳 | 池住 瑞紀(体育1) | 5位 |
| | 三段跳び | 大道 爽香(体育3) | 4位 |

(陸上競技部 顧問 筒井清次郎)

大学見学 to 知多翔洋高校、岡崎北高校、春日井南高校、桑名西高校が来学(報告)

本学では、受験生向けに高校からの大学見学を受け付けています。7月前半は4件の見学がありました。

2日(火)には愛知県立知多翔洋高校の1年生40人が訪れ、大学の概要説明を受け、第一共通棟や生協、ガラス工房、附属図書館などを見学しました。同校卒業生で情報科学コース3年の在学から大学生活についての説明もあり、質問コーナーでは生徒が「受験勉強は大変でしたか」「学食では何がおいしいですか」「どのぐらいの学生が教員になりますか」など多数の質問が出て、在学や入試や教務の担当職員が答えました。

3日(水)は同岡崎北高校の保護者87人が来訪。同校卒業生で臨床福祉心理コースと初等家庭科の4年生の学生が本学の魅力などを紹介しました。

5日(金)には同春日井南高校の保護者45人が来学。大学説明、施設見学、学食でのランチ体験をしました。説明には理科専攻4年の学生が参加して、学生生活、クラブ・サークル活動を紹介。保護者の「教師を目指したきっかけは」「愛教大を目指して、高校生活で頑張ったことは」「通学手段は」など幅広い質問に答えました。

そして、9日(火)は三重県立桑名西高校の2年生18人が来学。大学説明、施設見学、学食での昼食を体験。昼食後にはグラウンドや附属図書館なども見学して、キャンパスの広さを実感した様子でした。



催しもの案内

◆第6回愛教大アカデミックカフェ

「新種発見! ナガバノイシモチソウの不思議～渡邊教授と地域の連携で世界的発見～」

7月16日(火) 17:15～19:00

17:15～カフェタイム、17:30～講演、18:30～質疑応答

本部棟3階 第五会議室 入場無料・事前予約不要

講師: 渡邊幹男教授(理科教育講座)

演題：「ナガバノイシモチソウの不思議」

絶滅危惧種の食中植物「ナガバノイシモチソウ」のうち、豊明市など東海地方にだけ自生する赤い花を咲かせるタイプが日本固有の新種であることを、渡邊教授の研究グループが発見。学名に「トヨアケ」を冠して「ドラセラ トヨアケンシス」と命名した。世界的な発見について、渡邊教授が分かりやすく解説します。

問い合わせ：秘書広報課 TEL 0 5 6 6 ・ 2 6 ・ 2 7 3 8

または大学ホームページの案内をご覧ください。

http://www.aichi-edu.ac.jp/files/academiccafe06_130617.pdf

◆キャンパスクリーンデイ 2013

7月17日（水）15：30～16：30 雨天は24日（水）25日（木）26日（金）に延期
本学構内のゴミ・落ち葉の収集、放置自転車の回収作業など

参加者：全学教職員、学生

問い合わせ：施設課 TEL 0 5 6 6 ・ 2 6 ・ 2 1 5 2

◆愛知教育大学天文台 第84回一般公開

7月20日（土）18：00～20：30

自然科学棟5階・地学538教室、屋上・天文台など 雨天時も観望会以外は開催
18：00～19：00 天文台ミニ講座「探査衛星が捉えた衛星・小惑星の素顔」

講師：澤武文特別教授（理科教育）

19：00～20：30 観望会「土星と月の観望会」 天体：土星、月ほか

19：00～ 「3D宇宙の旅」上映会

解説：澤研究室学生

問い合わせ：理科教育講座 天文学研究室 TEL 0 5 6 6 ・ 2 6 ・ 2 6 2 4

天文台ホームページ

<http://www.phyas.aichi-edu.ac.jp/~tenmon/>

◆大学院入試説明会

7月28日（日）14：30～ 大学院入試説明会 【本部棟3階 第一会議室】

15：00～ 教育実践研究科（教職大学院）入試説明会

【第一共通棟 103教室】

問い合わせ：教務課大学院係 TEL 0 5 6 6 ・ 2 6 ・ 2 6 9 7

教職大学院係 TEL 0 5 6 6 ・ 2 6 ・ 2 6 7 9

編集後記

尾崎先生の著書『S先生のこと』の表紙カバーは、日本画家・川崎春彦氏の「曠野」で、ドラマチックな展開を予想させるものでした。読み進むにつれ、S先生こと須山静夫先生の人柄にどんどん魅かれていきました。「感情を抑えて書くようにしました」と尾崎先生が言われたように、淡々と描かれていくのかと思いきや、深く濃い人間愛や信頼感が滲み出てきて、読んでいて涙する場面も度々。中でも須山夫妻が結婚前に交わした書簡は数十年の時を経た今でも、瑞々しさ溢れる珠玉のラブレターで、「あんな手紙をもらったら、幸せだな」とまたまた感涙。若い学生の皆さんに、また、かつて若者だった皆さんにも、この夏おすすめの1冊です。（K）

投稿のお願い

学内外の出来事（教育・研究・地域連携・国際交流・学内事業など）に関するニュースの提供をお待ちしております。

メール：kouhou@m.auecc.aichi-edu.ac.jp 編集責任者：総務担当理事 折出 健二